

「英語特訓講座（通称本堂塾）」報告

本堂 藤昭

はじめに

この報告は本学特任教授岩城禮三先生の示唆がなければなされることがなかった。私にとって「報告」するだけの内容が感じられなかったからである。しかしながら、岩城先生のお勧めを受け、何事も記録を残しておくことの重要性を力説されて、「内容」はともかく「事実」をきちんと書き残しておくことにした。それが以下である。

1. 「本堂塾」開設の経緯

私は2001年4月に本学外国語学部英米語学科の非常勤講師として採用されたが、その直後から数名の学生が、講義の後、非常勤講師室を訪れてきて、主として英語の勉強法、なかんずく英検対策を尋ねてきた。月曜日と火曜日に3講座ずつの講座を担当していたので、それぞれの曜日の昼休みと全講座が終了後の4時半以降が相談にのる時間帯であった。

最初に現れた2年男子学生（1）は、英検2級取得を希望したので、英検全問題集2級用を教材に毎週月・火曜日の講座終了後に個人指導を行った。結果として、2001年秋の第二回検定で合格した。その後、友人の2年男子学生（2）を連れて現れた。この男子学生（2）は高校時代から英検2級を6回受けているが、一次突破もできず悩んでいるので、相談にのってほしいということであった。2001年10月から4ヶ月の特訓を行い、2002年1月の第三回検定で合格となった。

この特訓中に聴講生の女子学生（1）（後に正規学生として入学し2003年11月の第103回TOEICで本学学生最高点の825点を獲得）が現れ、検定用というよりは英語の文法が弱いので教えてほしいという依頼を受けた。そこで、書店で買い求めた文法書を与えて、一週間で学習すべき課題を与え、週一回の個人指導を行った。

このような形で要望に応じているうちに相談に現れる学生の人数が急激に増えてきたが、週2日の勤務日だけでは、たとえ夜の9時位までを費やしても、全ての要望に応じきれなくなった。それに加えて、非常勤講師室では他の非常勤講師の先生方の存在があるうえ仕事の障害にもなり、学生も落ち着かないという点でも問題があった。

2. 「本堂塾」の開設

そうこうしているうちに、幸運にも、2002年10月に専任講師として採用された。まず場

所と時間の確保ができた。いつでも自分の研究室で学生の相談に乗り、要望に応えることができるようになった。このことは逆にひとりひとりを相手にしていると時間的にも能率的にも際限がなくなるということの意味した。加えて、学生たちの実態を知るにつれ、小手先の英語学習術ではなく、「学習とはどういうことか」「長期的にどのような心構えが肝要か」「自分に合った学習法または問題対処法の発見」「自分の弱気をどう克服するか」というようなもっと根源的な面を共に考えなくては解決にならないし、将来の社会人としての心の基盤を身につけられないということを思い知らされた。

そこで、2002年12月に自分の担当する講座の受講生のうち、主として3、4年生を対象に「英語検定準1級対策特訓講座」を2003年春休み全期間（2003年2月24日～3月31日）に開くことにして希望者を募った。希望してきた学生に下記の「本堂塾鉄則」なるものを配布して、どうしても参加したい者のみが正式に申し込むようにと伝えた。「本堂塾」も「鉄則」も、あまりムキにならず、しかし真剣に、という意味でユーモアを込めたネーミングのつもりであった。これが「本堂塾」の起源である。因みに、大学事務局に教室使用願を提出した時の講座名は「英語検定準1級合格のための特訓教室」となっている。

<本堂塾鉄則>

本 堂 塾 鉄 則

1. 遅刻するべからず。遅刻したら破門。
2. 欠席するべからず。欠席したら破門。
3. 課題は、自分の良心に従って、誠実にやり遂げ、提出すべし。
4. 不満・苦情は言うべからず。言い訳もするな。悪いのは全て自分と知るべし。
5. やる気のない者は、参加すべきではない。やる気のある者の邪魔になるだけ。
6. 私（本堂）とともに、苦しみを楽しみ、何としても「合格」を掴み取ろう！

-
- 時 間： 午前10時 - 午後1時
 - 場 所： 246教室
 - 実施日： 2月/24（月）、25（火）、26（水）
3月/10（月）、11（火）、12（水）、13（木）、14（金）17（月）、
18（火）、19（水）、20（木）、25（火）、26（水）、27（木）、
28（金）、31（月）
(4月以降については相談のうえ、決定する)

3. 第一回本堂塾

「塾」の目指すもの

その第一回の講座の冒頭で、次の点を強調した。

- (a) この講座は受身ではいけないこと。何かをしてもらうのではなく、自主的に何かを掴もうとすることが肝要であること。
- (b) 自分に合った英語の勉強法を発見すること。そのことを通じて、自分に自信を持つこと。
- (c) この講座は社会体験もそのひとつの柱であるので、いろいろの場所の見学もあること。
- (d) 長期的視点からは、精神の鍛錬を通じて社会の有用な人材となることが最終的な目標であること。

下記が「第一回本堂塾」の概要であるが、私にとって、長期目標・短期目標・期間・時間帯・教材・社会見学など全ての面に関して、試行錯誤の第一回でもあった。「塾生」は男子学生3名、女子学生6名の合計9名で、内訳は4年生4名、3年生4名、2年生1名であった。

期間：2003年2月24日～3月31日（土日曜日を除く）

時間：午前10時～午後1時

教室：246教室

教材：<リスニング> 1. NHK・BS「異文化の旅（タイ）」2003. 1. 16放送
2. NHK・BS「異文化の旅（モロッコ）」2003. 1. 30放送
3. CBS News World（Seibido）
4. Inside Stories U. S. A.（Seibido）

<速読・多読・読解> 1. 合格最速ナビゲーター：英検準1級（旺文社）
2. The Japan Times（December 1－30, 2002）
3. 英検準1級完全予想問題（大栄出版）

<社会見学> 3月20日（木）午前（財）札幌国際プラザ
午後 国際協力事業団札幌センター

当初は3月31日で終了する予定であったが、2003年第一回英検が6月中旬ということもあり、それまでに英語力が落ちてしまう恐れがあったので、前期中の5月末まで週2回のペースで継続することになった。学生からの要望でそうなったのではあるが、前期の講義に加えての午後6時以降の特訓は、学生と私にとってかなりの負担であった。

成果

英検準1級合格が「塾」の直接目標であったが、3月23日（日）に第97回国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）があり、私は知らされていなかったが、「塾生」のうち3名が受験していることが判明した。その3名が北海道教員採用試験の受験を予定しており、専門科目の受験免除がTOEICで670点以上か英検準1級であることと第一回英検の結果が判明する8月では願書に間に合わないことで、この3名は初めからTOEIC狙いであった。受験の結果、驚いたことに4年女子学生（2）が725点、3年女子学生（3）が801点、3年男子学生（3）が675点であって、結果として3名全員が北海道教員採用試験の一次試験（専門科目）免除となった。特にTOEIC受験2回目の3年女子学生（3）は前回が530点であったから、270点以上の伸びとなった。

6月の2003年度第一回英検では全員が準1級を受けたが、残念ながら合格はなかった。一次試験最高得点は3年女子学生（3）の67点で、合格には3点不足であった。また、この年の9月28日に実施された第101回TOEICで3年男子学生（4）が初挑戦で720点を取った。

社会見学は極めて好評であった。どちらの施設も語学が毎日の業務で使用されており、本学学生にとって日常の学習の大切な動機づけとなると再確認した。社会経験の少ない学生に社会活動の現場の空気を吸わせることはいつの時代であっても重要であると考えられる。

4. 第二回本堂塾

第二回は試行として全体に呼びかけずに、それまでに申し出のあった3年女子学生3名を対象に、2003年の夏休み期間中に実施した。この回は意識的に人数を少なくしたこともあり、また試行として教室形式をとらず時間をずらしつつ行う個人指導としてみた。

期間：2003年7月28日～9月29日（土日曜日とお盆休暇期間を除く）

時間：午後1時～午後5時

場所：本堂研究室

教材：<リスニング> 1. American Voyager (Asahi Press)
2. 合格最速ナビゲーター：英検準1級（旺文社）

<速読・多読・読解> 1. 英検準1級全問題集2003（旺文社）
2. 英文物語・随筆・紀行文など約12冊
3. The Japan Times (June 15-30, 2003)

<社会見学> 4月19日（土）午前 札幌国際コンベンションセンター

成果

受講した3名のうち2名が2003年度第二回英検準1級を10月19日（日）に受験した。

両名とも初めての準1級だったので、その難しさに降参したようであるが、女子学生（4）は57点（合格点70点）、女子学生（5）は43点であった。試験には不合格であったが、英文に対する恐れはなくなったという点では両名は共通している。

社会見学は札幌市が新設した国際会議場である「札幌国際コンベンションセンター」をその正式オープンに先立って内覧会が行われたものに、第一回本堂塾の参加学生にも声をかけ第二回の塾講義に先立って10名で実施した。本格的な国際会議場として最新の設備が整っているの、英米語学科の学生にとっては大いなる刺激となった。

5. 第三回本堂塾

これはまた別の学生の強い個人的要望を受け、2003年後期学期中に実施した。対象は3年男子学生（5）1名と2年女子学生（6）1名である。学期中であることから週1回の指導としたが、学生に対しては一週間分の学習を課し、第一回・第二回にはない厳しきで接した。

「本堂塾鉄則」を示しても学生・教員双方が甘くなる傾向があり、期待したような成果が出ないため、もう一度原点に戻る必要を感じたのである。厳しさとは、学習する内容の程度と分量がひとつ、もうひとつは期限厳守という点である。

期間：2003年10月20日～2004年1月20日（土日曜日を除く）

時間：毎週月曜日午後6時～午後9時

場所：本堂研究室

教材：<リスニング> 1. NHK ラジオ講座「リスニング入門」

<速読・多読・読解> 1. The Japan Times (August 1 - 15, 2003)

2. Newsweek

3. 英文物語・随筆・解説文など約5冊

<社会見学> なし

成果

今までにはない英語力の伸びを実感できた。その理由は2つ考えられる。第一の理由は学生の意欲と私の意欲がピタリと重なったこと、第二の理由は学年の違う男女学生に強い競争意識を持たせたことである。私も遠慮することなく二人の学習の中身と個々の進歩の度合いの違いをその前で比較し、競争心を煽り立てた。

両名とも2004年1月25日（日）の第三回英検準1級を受験したが、結果としては男子学生（5）が53点（合格点66点）、女子学生（6）が48点であった。この得点とは別に、両名とも、これまでにこれほど勉強したことはないという感想を寄せると同時に、英語のリスニング・読解に自信をもつことができ、現在もほぼ毎日のようにNHKの英語講座を聴き、英文雑誌や原書を読んでいると述べている。

6. 第四回本堂塾

上記の第三回の時期に平行して、第四回を行うことになった。これはこの後期学期中に私が担当している「英語教授法Ⅱ」受講学生のうち約半数の8名の者が、英語教員としての実力アップをしたいので自分たちだけのための特訓講座を開いてほしいと希望してきたからである。申し出が2003年12月中旬で第104回TOEIC試験日が2004年1月25日(日)だったために、止むを得ず下記の短期間に限定して実施した。

期間：2003年12月22日～2004年1月9日（年末年始の大学閉鎖日を除く）

時間：午前10時～午後3時

場所：本堂研究室

教材：<リスニング> 1. American Voyager (Asahi Press)

2. CNN International (Asahi Press)

<速読・多読・読解> 1. 英文物語・随筆・解説文など約2冊

2. はじめて受ける TOEIC TEST (桐原書店)

<社会見学> なし

成果

この回の成果は芳しくなかった。TOEICで期待のスコアを取れた者は皆無であった。私の側が準備をほとんどできなかったこと、期間があまりに短かったこと、学生の依頼心が強すぎたこと、それに何といっても教える側に甘さがあったことなどがその理由として挙げられる。

7. 第五回本堂塾

学生は英米語学科のみならず、他学科の者もやってきた。ある日本語学科の2年女子学生は高校時代から英検2級の一次試験は3回合格したが二次で落とされたとしてその対策の相談に現れた。そこで入念な説明と準備をさせた上で、数週間にわたる二次用模擬面接をしたところ、二ヶ月後の試験で合格となった。中国人留学生の3年女子学生も2級を取りたいということで、一次試験対策から3ヶ月をかけ、最終合格にこぎつけた。これは、「本堂塾」の合間に行った個人指導の例である。

これまで4回の試行を重ねて、種々のことがわかってきた。まとめてみると、

- (1) 人数が多いと効果が少ない
- (2) 他人頼みの気質が強い学生は積極的な学生の意欲を削ぐ
- (3) 「鉄則」はきちんと守らせなくては良くならない
- (4) 対象学生に合ったやりかたでなければ効果がない
- (5) 母国語である日本語の能力に問題がある

- (6) 一般的な社会問題・歴史・文化に関する知識に欠ける
- (7) 社会見学は動機づけの点からも必須である
- (8) 目標を英検だけではなく TOEIC や TOEFL にも広げる必要がある
- (9) 各種模擬テストも複数回実施することが望ましい

そこで、この反省点を考慮して、第五回を実施することにした。一部の学生を対象に実施した過去第二回～第四回に関して、多くの学生から自分たちにも声をかけてほしい旨の声が上がったので、上記(1)の反省点に反することで迷ったが、学生の言い分ももっともであると思い直して、私が担当する講座の全受講生に呼びかけた。その際、上記のうち(1)～(3)を特に強調して、公平を配慮して全員に呼びかけるが、大部分の学生はついてこれないだろうから余程の覚悟がない限り申し込まないようにと付け加えた。応募してきた27名のひとりひとりと面談した上で、7名を決定した。

期間：2004年2月23日～2004年3月30日（土日曜日を除く）

時間：午前10時～午後1時

場所：本堂研究室

教材：<リスニング> 1. Inside Stories U. S. A. (Seibido)
 2. Science for Inquiring Minds (Seibido)
 3. 合格最速ナビゲーター：英検準1級（旺文社）

<速読・多読・読解> 1. Time Magazine
 (Issues of August 18 & 25 and September 1, 22 & 29, 1997)
 2. The Japan Times (June 1-30, 2003)
 3. Reading Landmarks of the World (Sanshusha)
 4. ロングマン完全パック TOEIC TEST (Longman)
 5. 英検準1級全問題集 2004 (旺文社)

<社会見学> 3月中旬 午前 (財) 北方圏センター
 午後 (財) 北海道消費者協会

ところが、教材を渡す予定の2月20日に私が緊急入院することになり、この回は中止となった。

8. 第六回本堂塾

第五回本堂塾が中止になったことを受け、同年2004年夏休み期間中に第六回を実施することとした。その際に、私の講座受講生のみには知らせるのではなく文字通り全員に声をかけるという形をとってほしい、つまりきちんと掲示してほしいという要望が強く

出されたので、ロビーの英米語学科用掲示板に掲示すると同時に、初めての試みとして説明会の開催を告示した。

6月1日(火)に行った説明会には、約55名が集まった。第五回本堂塾で述べた反省点を中心に、現在の英語力は問わないが意欲は問う、途中で挫折する恐れを持つ者は始めから来るべからず、程度は相当高いので覚悟すべし、などなど脅しではなく本心を述べた。

その結果、実際に申し込んだのは、男子学生6名、女子学生15名の21名であり、内訳は4年生3名、3年生8名、2年生10名であった。今までと異なる点は、中国人4年女子留学生1名と3年に編入学した社会人女子学生が参加したことであった。7月30日(金)に教材を受け取りに来て(前期試験最終日が8月3日なので)8月4日(水)までに学習すべき課題を渡したのであるが、その8月4日の初日に予習が間に合わなかった2名がまず脱落した。更に、同様の理由で、本堂塾開始第一週目に3名を第二週目に1名を以後出席ならずとしたので、最終的に残ったのは15名であった。「鉄則」を実際に適用した初めての「本堂塾」となった。

期間：2004年8月4日～9月24日(土日曜日とお盆休暇期間を除く)

(注)9月24日は社会見学の日であり、全員で見学に出かける。

時間：午前10時～午後1時

教室：246教室

教材：<リスニング> 1. Inside Stories U. S. A. (Seibido)
2. Science for Inquiring Minds (Seibido)
3. 合格最速ナビゲーター：英検準1級(旺文社)

<速読・多読・読解> 1. Time Magazine
(Issues of August 18 & 25 and September 1, 22 & 29, 1997)
2. The Japan Times (June 1 - 30, 2004)
3. Reading Landmarks of the World (Sanshusha)
4. ロングマン完全パック TOEIC TEST (Longman)
5. 英検準1級全問題集2004(旺文社)

<社会見学> 9月24日(金) 午前 (財)北方圏センター
午後 (財)北海道消費者協会

成果

2004年第二回英検でやっと準1級の一次合格者が出た。第一回と第五回の本堂塾に参加しその後も個人指導していた4年男子学生(6)で合格点69点のところ71点であった。その後二次試験では模擬面接も数回行ったが不合格となった。その他では、3年女子学生(7)が初挑戦のTOEICで630点、英検準1級では50点、2年女子学生(8)がTOEIC325

点、英検 2 級で 4 点不足で不合格であった。第六回の受講生から 2 級合格者が 7 名出たが、準 1 級は合格者がなかった。

「鉄則」適用が今後の第七回以降の特訓塾にどのような影響を及ぼすかを探るため及びこの塾が学生側にどう受け止められているのかを調査するために、今回初めて、下記のアンケートを、塾最終日の 9 月 22 日とほぼ全員が受験する 2004 年度第二回英検一次試験（10 月 17 日）後の 10 月下旬（塾終了 1 ヶ月後）に、実施した。第一表はアンケートのひな型であり、第二表（9 月 22 日分）と第三表（10 月下旬分）はその結果である。

<第一表>

2004 夏期本堂塾受講者対象アンケート

（実施日：2004・9・22 及び 10 月下旬）

1. この講座を受けようと考えた動機は何ですか。
2. 講座の期間については長いですか、短いですか。
3. 講座の時間（3 時間）は長いですか、短いですか。
4. 講座の時間帯（午前 10 時～午後 1 時）はどうですか。
5. 教材についての感想をお聞かせ下さい。
 - （1）リーディング用教材
 - （2）リスニング用教材
 - （3）模擬テスト用教材
6. 教え方についての感想をお聞かせ下さい。
 - （1）内容の難易度
 - （2）進み方の速さ
 - （3）教材の量
7. 社会見学（今回の北方圏センター・北海道消費者協会）は有益ですか。
8. この講座を続けてほしいですか。友人に勧めたいですか。
9. 今後もし同様の講座を実施するとした場合、どう改善したら良いと考えますか。
（具体的に）

<第二表>

アンケート結果（回答数 13）

（実施日：2004・9・22）

1. この講座を受けようと考えた動機は何ですか。

- <回答> # 自分に合う勉強法を見つけ、ライバルと勉強して自分を追いつめるため。
集中して勉強。徹底的に勉強の仕方を学びたかった。力をもっとつけたい。
英検準1級を取りたかったのだ。
自分の学力向上のため。
英検を取ってみたいと思ったから。
夏休みをただだと過ごさず、力をつけるため。
レベルの高い講座を受けて自分自身を見つめなおすため。
TOEIC のスコアを上げるため。
検定獲得のため。
TOEIC と英検のレベルアップと勉強の継続力をつけるため。
休み中に英語力をつけるため。
今まで一生懸命勉強をしたことがなく、この機会に自分に厳しくしたいと思ったため。
夏休みの時間を無駄にしたくない。

2. 講座の期間については長いですか、短いですか。

- <回答> # 2ヶ月はちょうど良い 10名
最初は長く感じたが今は短く感じる 3名

3. 講座の時間（3時間）は長いですか、短いですか。

- <回答> # 長い 1名
短い 2名
ちょうど良い 10名

4. 講座の時間帯（午前10時～午後1時）はどうですか。

- <回答> # 早い 1名
ちょうど良い 12名

5. 教材についての感想をお聞かせ下さい。

（1）リーディング用教材

<回答> TIME が難しかったが、世界情勢がよくわかった。一般常識が増えた。政治経済の英文記事も恐ろしくなくなった。どれも良かった。

(2) リスニング用教材

<回答>良い。もう少し復習の回数を多く。画像があったのでイメージを掴むことができた。知識が増えた。難しかった。ビデオ学習は効果がある。

(3) 模擬テスト用教材

<回答>良い。自分の位置がよくわかる。実際の問題形式がよく理解できた。難しかった。目標ができた。

6. 教え方についての感想をお聞かせ下さい。

(1) 内容の難易度

<回答> TIMEの時は難しかったが後半は楽だった。わかり易い。わからない時もあった。もう少し程度の高いものを。難しいのに慣れる必要あり。

(2) 進み方の速さ

<回答> 50回読みで力がついた。質問の時間があったので、OK。ちょうど良い。まだ速くても良い。先生が遅い者は置いて行くといったので必死になり、良かった。

(3) 教材の量

<回答>自分を追いつめるにはちょうど良い。多い。充実していた。

7. 社会見学(今回の北方圏センター・北海道消費者協会)は有益ですか。

*このアンケートの時点ではまだ社会見学を実施していないので無回答。

8. この講座を続けてほしいですか。友人に勧めたいですか。

<回答>ぜひ続けてほしい(全員)。やる気のある人にはぜひ勧めたい(全員)。

この2ヶ月の苦しみ、楽しみは言えない。先生の体が心配。

9. 今後もし同様の講座を実施するとした場合、どう改善したら良いと考えますか。

(具体的に)

<回答>授業面では特にない。通年でやってほしい。過去問は最初にやったほうが良い。人数が少ないほうが良い。先生の色々な経験談をもっと聞きたい。改善すべき点はない。もう一度受けたい。模擬試験をもっと多く。途中で何人かの学生の首を切ったが、基準がはっきりしない。勉強のやり方がわかった。全体的にもう少し深くやってほしかった。

<第三表>

アンケート結果（回答数 13）

（実施日：2004. 10 月下旬）

1. この講座を受けようと考えた動機は何ですか。

<回答> # 英語が上手になりたい。

英語力をつけたい。徹底して勉強したいと思った。

語学レベルのアップおよび資格獲得のため。

英語の勉強のきっかけのため。

夏休みをだらだらと過ごさず、力をつけるため。

能力アップしたいと思ったため。

TOEIC のスコアアップと就職のため。

検定獲得のため。

TOEIC と英検のレベルアップと勉強の継続力をつけるため。

休み中に英語力をつけるため。

自分の英語力を見つめ直す。

2. 講座の期間については長いですか、短いですか。

<回答> # 2ヶ月はちょうど良い 7名

終わってしまえば短かったが、やっている時は長く苦しかった 4名

短い 1名

長い 1名

3. 講座の時間（3時間）は長いですか、短いですか。

<回答> # 短い 3名

ちょうど良い 10名

4. 講座の時間帯（午前10時～午後1時）はどうですか。

<回答> # ちょうど良い 13名（全員）

5. 教材についての感想をお聞かせ下さい。

（1）リーディング用教材

<回答>最初にやった TIME の記事が一番きつかった。難易度があり、TIME の教材は一日の半分かくらいを費やすほど難しかった。社会的な事情を取り上げた教材は世の中を知る上でとても役に立った。語彙も一般常識も増えた。世界のことも勉強できて良かった。政治経済の英文記事も恐ろしくなくなった。どれも良かった。自分のレベルには丁度

良いと思う。慣れるまではすごく難しかった（特に英字新聞）。

(2) リスニング用教材

<回答>とても良い。科学のやつは難しかった。英語圏に関する知識を高める内容だったので一石二鳥の教材だった。ネイティブの速度を実感でき、慣れるためには充実したものだ。難しい—簡単—難しい、この方法は好きだ。理科をやっているようで楽しかった。もう少し復習の回数を多く。科学的な方がとても速くて聞き取りが難しかったが、その後ABCニュースを聞くと前に比べてかなり聞き取れた。耳を慣らすのにとても良かった。科学のビデオをもっとやりたかった。

(3) 模擬テスト用教材

<回答>もう少し回数をこなしたかった。難しかった。ちょうど良い。実際のテストを受けているような緊張感があって良かった。TOEICの模擬テストは大変良かった。未受験者にとってはとても役立った。普段家でやるのが困難な時間制はやりがいがあった。

6. 教え方についての感想をお聞かせ下さい。

(1) 内容の難易度

<回答>世界の動きなどバックグラウンドが欠けていたため少し難しかった。TIMEの記事はは難しかった。難しい内容だったが、家で徹底的に予習することによって授業についていくことができ、さらに重要な点の指摘で理解できた。難しいものばかりだったが、少し下のレベルがとても簡単なものを感じた。わかり易い。やり方を覚えることができた。もう少し程度の高いものを。

(2) 進み方の速さ

<回答>最初速すぎて大変だったが、やっていくうちに楽になった。ついていける速さだった。ちょっと速すぎる。解説をもっと詳しく。自分の実力がついた気がする。学生の様子を見ながら進めたので時間の無駄もなくテキパキとしてとても良かった。ちょうど良い。まだ速くても良い。

(3) 教材の量

<回答>最初はプリントの量に驚いたが、今は物足りない気がする。最初は多くて大変だったが、日を追うごとに慣れた。もっと増やしても良い。多いほうが自分を追いこめるのでちょうど良い。多い。

7. 社会見学（今回の北方圏センター・北海道消費者協会）は有益ですか。

<回答>すごく勉強になった。ああいう所もあるのかと初めて知った。個人

でも行ってみたい。すごく自分のためになった。この見学後食品の表示に気をつかうようになった。北方圏センターでは、通訳の話が一番印象に残っている。通訳にもいろいろな方法があるんだととても勉強になった。色々と勉強になった。視野が益々広がった。思ったより面白い話が聞けて良かった。日本の社会をもっとわかるようになった。自分の知らない世界を見ること、もっと様々なことに関心を持たなければと思った。

8. この講座を続けてほしいですか。友人に勧めたいですか。

<回答>ぜひ続けてほしい（全員）。ほんとうに根性・覚悟・情熱・感謝の念のある友人にはぜひ勧めたい（全員）。続けて伝統をつくってほしい。先生の体力・体調が心配だ（5名）。自分はもう一度受けたい。

9. 今後もし同様の講座を実施するとした場合、どう改善したら良いと考えますか。
(具体的に)

<回答>特にない。人数をできるだけ少なくする。説明をもっと詳しく。模擬テストの回数を増やす。リスニングをもっと多く。自主的に発表できない人には強制を。復習の時間を多く。予習量を減らす。休憩時間を少し長く。本堂塾を終えて1ヶ月経ったが、長文を読むのが辛くなくなった。リスニングも前より聞こえるようになり驚いた。勉強のやり方も覚えた。後は自分に厳しく頑張ろうと思う。改善すべき点はない。

終わりに

現在少々気持の上で疲れており、今後も続けるべきかどうか迷っている。続けるにしても、どういう形が良いのかという点でも迷っている。迷う気持の底には、学生側にみられる次のような語学学習以前の問題点がある。

- (a) 学生の母国語である日本語の能力の弱さ
- (b) 世界・社会・歴史・文化などに関する一般的な関心と知識の不足
- (c) 自分から積極的に掴み取ろうとする意欲・気力・体力の少なさ

このような点は現代の学生に共通することで本学学生のみの問題ではないのかも知れない。従って、本学学生を責める気持はない。それどころか、アンケートの結果からわかるように全般として肯定的に反応されると、迷いつつもやはり継続しなくてはとは考えている。